

日本の伝統的文様とネオ・ジャポニズム

長谷川瞳

1. はじめに

ある人気モデルのブログに、和と洋を融合させたファッションコーディネートや、和柄からインスパイアされたネイルなどを見つけ注目していた(写真1)。その中で、「**ネオ・ジャポニズム**」という言葉を知った。

本研究では、「**ネオ・ジャポニズム**」について調べ、2016年初頭にはまだハイブランドでの展開は無かったと思われる日本の伝統的文様、すなわち「家紋」を使用した私なりの「**ネオ・ジャポニズム**」の提案を行うこととした。



写真1. 鶴のモチーフのスカート
<http://www.instagram.co./rolaofficial/?hl=ja>

2. ジャポニズム

きっかけは、1873年のウィーン万博。1300坪の敷地に神社と日本庭園を造り、浮世絵や工芸品を展示。西欧人へ日本の文化をアピール。当時のヨーロッパの人々は**極彩色**を服に取り入れる習慣がなかったため、衝撃を与えた。その象徴的絵画としてモネの作品(写真2)がある。



写真2. モネの「ラ・ジャポネーズ」
<http://www.nagoya-boston.or.jp>

3. ネオ・ジャポニズム

2013~2016年のネオジャポニズムには「**グラフィック**」「**ミニマリズム**」「**絢爛豪華**」の3つの要素が含まれる。先のジャポニズムとは、日本的要素の取り入れ方は異なるが「**絢爛豪華**」さが発展し、より一層日本的伝統モチーフが用いられるようになった。その例として、写真3は和柄と着物風**デザイン**が印象的なエミリオプッチのコレクション。



写真3. GAP COLLECTIONS PRET-A-POTER
2013 SPRING&SUMMER MILAN

3. 家紋と水引から着想した衣装



1. 家紋を決める



切り離しただけのデザイン



シャープな印象のデザイン



丸みを帯びたデザイン

2. 家紋をデザイン



3. 型彫

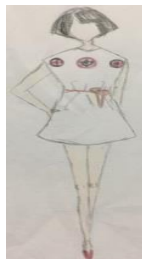


4. 印捺



5. 配色の検討

赤×黒の配色の方が華やかさと同時に引き締まった印象



6. 衣装のデザイン
貫頭衣と和服の紋付を意識したデザイン



7. な染と水引製作

水引を参考にベルト部分を作成



8. 完成品

4. まとめ

2020年に開催される東京オリンピックは、日本の文化を世界に広める大きな機会になる。本研究では家紋と水引を組み合わせて日本の文化を取り込んだファッションを考案した。家紋は黒地に白抜き、あるいは白地に黒で表現されることが一般的だが、配色によって印象が異なり、模様としての可能性の広さがうかがえた。家紋の他にも、アイヌの衣装やこぎん刺しの紋用なども模様一つ一つに意味があり、祈りが込められていたりする。ビッグイベントである東京五輪に向け、各地に点在する日本独自の紋用や工芸品をさらに探求し、発展させていけたらと思う。